

2017年7月30日(日)朝10:10
7月第5共同主日礼拝式説教

主の聖霊降臨節第9、読書会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**7つの金の鉢；第5の金の鉢：**
獣の国の苦難

聖書：ヨハネの黙示録 16章10～11節

<口語訳>

新約聖書402頁

ヨハネの黙示録 16章10～11節

<新共同訳>

新約聖書470頁

ヨハネの黙示録 16章10～11節

<新改訳第3版>

新約聖書494頁

ヨハネの黙示録16章10～11節

<塚本訳>

新約聖書810頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝と大讚美、6～13章は、聖徒の戦い、神の恵みの啓示と審判、主の即位と24人の長老の神礼拝、女性、天使と龍(悪魔・サタン)、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、福音啓示、バビロン倒壊、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、殉教者の幸福と内住の御霊の声、再臨の御子の刈りと天の穀倉格納、神の怒りの葡萄刈り、酒槽投入、15章は、金の鉢による神の最終裁き序曲、16章1節は、神の怒りの金の鉢の用意命令、2節は、腫物、3節は、血海、4～7節は、血水による獣と礼拝者へ、8～9節は、太陽炎焼での地上の人々の死の裁きです。

◇ヨハネの黙示録16章10～11節は、神の怒りの満ちた第5の金の鉢の注ぎと獣の座を暗くし、獣の国の人々を腫物等の苦痛で苦しめる裁きです。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第16章10～11節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録16章10～11節；ヨハネは、第5の金の鉢の獣の座への注ぎと獣の国の人々の腫物による苦痛の苦しみが与えられるという裁き施行を見ます。

◇16:10～11；塚本訳◆第五金の鉢—
獣の国の苦難

「10 第五の天使がその鉢を獣の王座の上に注いだ。するとその王国は真暗になり、人々は疼痛のために舌を嚙んだ。

11 そしてその疼痛と腫物のために天の神を流し、自分の(悪い)業を悔い改めなかった」と、ヨハネは、獣の座への金の鉢注ぎによる獣の国の人々の腫物による苦痛による神の裁きを見ました。

◇10節；「第五の天使がその鉢を獣の王座の上に注いだ」結果、「王国は真暗になり、人々は疼痛のために舌を嚙んだ」。

⇒「王座」は、ヨハネ黙示録4～5章の神の「御座」と同じギリシャ語が用いられていますが、「獣」の「王座」は、実質「龍(悪魔・サタン)」の支配する「王座」であり、地上の王国でした。

⇒「神の御座」の裁き基準が、「神の義」であるのに対して、「獣の王座」の裁定基準は、「不法・偽善」なのです。

⇒神の金の鉢の裁きは、「地、海、水源、太陽」へと注がれ、今、「獣の王座」へと注がれました。神が、「龍(悪魔・サタン)と獣の本陣」へ切り込む本戦を挑んでおられるのです。

⇒神が、「獣と龍(悪魔・サタンの王座)」に「暗闇」をもたらすことによって、「獣と龍(悪魔・サタン)の本質」が「暗闇」であることをしるしを通して示しておられるのです。

⇒彼等の「暗闇」こそ、「不法・偽善」の支配する世界で、「神の義」の世界と秩序を破壊しようと懸命に働いているのです。

◇11節;「**獣の国の人々**」は、「**その疼痛と腫物のために天の神を流し**」、「**自分の(悪い)業を悔い改めなかった**」のです。

⇒その心が、「**不法・偽善**」で占領されている時、「**神を流(けが)し**」、「**神に対して悔い改める**」ことが、できなくなることを11節の出来事は、示しています。

⇒「**神礼拝**」や「**神への悔い改め**」も、「**神の恵み**」なのです。

⇒「**獣や龍(悪魔・サタン)の暗闇**」は、「**不法・偽善**」によって、「**神への冒流**」、「**神への悔い改め拒否**」を人々の心に植え付けるとともに、自然環境の破壊などを通して、肉体的苦痛を与えるのです。

⇒「**暗闇**」は、心に孤独や絶望を与え、人間の信頼関係を破壊して、「**神の義**」に生きる希望を見失わせるのです。現実だけでなく、これから先の見通しも見えなくさせるからです。

⇒「**暗闇**」の中に置かれていることが、**神**の「**獣と龍(悪魔・サタン)**」への裁きであるとともに、「**暗闇の中に巻き込まれた人々**」には、その実態に気づく機会でもあるのです。

◆ エペソ5章8～14節 ; パウロは、暗闇から神の光の恵みの中へ導かれた光の子を示し、光の子らしく生きることを奨めています。

◇ 5:8～14 ; 塚本訳 ◆ 光の子供らしく

「8 君達はかつては暗であったが、今は主に在って光である。光の子らしく歩け——

9 光の果実はあらゆる善と義と真であるから

10 何が主の御意に適うかを(よく)吟味せよ。

11 そして果実を結ばれない暗の業に与せず、むしろ(これを)明るみに出せ。

12 何故なら、彼らが隠れて行うことは(これを)口にするさえ恥ずかしいことである。

13 しかし明るみに出され(てその正体を暴露され)るものは皆(神の)光によって照らされる。

14 (そして神の光に照らされ罪を浄められる時その人自身が光となる。)然り、(光に)照らされるものは皆光である。故に主は言い給う——眠る者、起きよ、死人の中より立ち上がれ、さすればキリストが汝を照らし給うであろう」と、パウロは奨めます。

◇8～14節；「君達はかつては暗であったが、今は主に在って光である。光の子らしく歩け」(8)、「しかし明るみに出され(てその正体を暴露され)るものは皆(神の)光によって照らされる」(13)、「(そして神の光に照らされ罪を浄められる時その人自身が光となる。)然り、(光に) 照らされるものは皆光である。故に主は言い給う——眠る者、起きよ、死人の中より立ち上がれ、さすればキリストが汝を照らし給うであろう」と、パウロは、「暗闇」から「神の光」へと導かれることの幸いを示しています。

⇒「暗闇」は、「不法・偽善」の心を占領されている人々には、絶望をもたらす要因ですが、「神の光」の中に導かれた人々には、「暗闇」から解放された喜び、希望が満ち溢れるのです。

⇒丁度、暗いトンネルを抜けると、明るさを感じるように、「暗闇」から抜け出すことが大事なことなのです。

⇒私たちは、「神の恵み」によって、「光の子」ですから、「神の義・礼拝・讚美・祈り」に!!

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」で、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通し(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録と理解。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝と大讚美、6～13章は、聖徒の戦い、神の恵みの啓示と審判、主の即位と24人の長老の神礼拝、女性、天使と龍(悪魔・サタン)、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、福音啓示、バビロン倒壊、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、殉教者の幸福と内住の御霊の声、再臨の御子の刈りと天の穀倉格納、神の怒りの葡萄刈り、酒槽投入、15章は、金の鉢による神の最終裁き序曲、16章1節は、神の怒りの金の鉢の用意命令、2節は、腫物、3節は、血海、4～7節は、血水による獣と礼拝者へ、8～9節は、太陽炎焼での地上の人々の死の裁きです。

◇ヨハネの黙示録16章10～11節は、神の怒りの満ちた第5の金の鉢の注ぎと獣の座を暗くし、獣の国の人々を腫物等の苦痛で苦しめる裁きです。

⇒ヨハネ黙示録16:10～11は、神の怒りの金の鉢によって、「獣と龍(悪魔・サタン)の国」は、「暗闇」に支配され、「不法・偽善」の国の人々には、腫物による苦痛や「暗闇」自体がもたらす孤独、絶望感が、その心を苦しめます。

⇒併し、「暗闇」の自体に気づいた人々は、その「不法・偽善」から抜け出したという思いが与えられるのです。

⇒パウロは、殉教者ステパノの祈り、アナニヤの執成しの祈り、復活の主の直接の語りかけ等によって、彼自身の心が、「不法・偽善」と「暗闇」に支配され、「神の義」に生きているつもりだったのに、「神の子たち」の迫害者、神の御子ご自身に反逆する者となっていることに気づかせていただいたのです。

⇒「神への悔い改め」も、自分が「暗闇」の中にいることに気づくことから始まるのです。

⇒神に聴き従う事も、神の恵みに気づく事から!